

バイオマスエネルギーを家庭に



ホワイトペレット燃料



エコメッセでのペレットボイラー

カーボンニュートラル
という考え

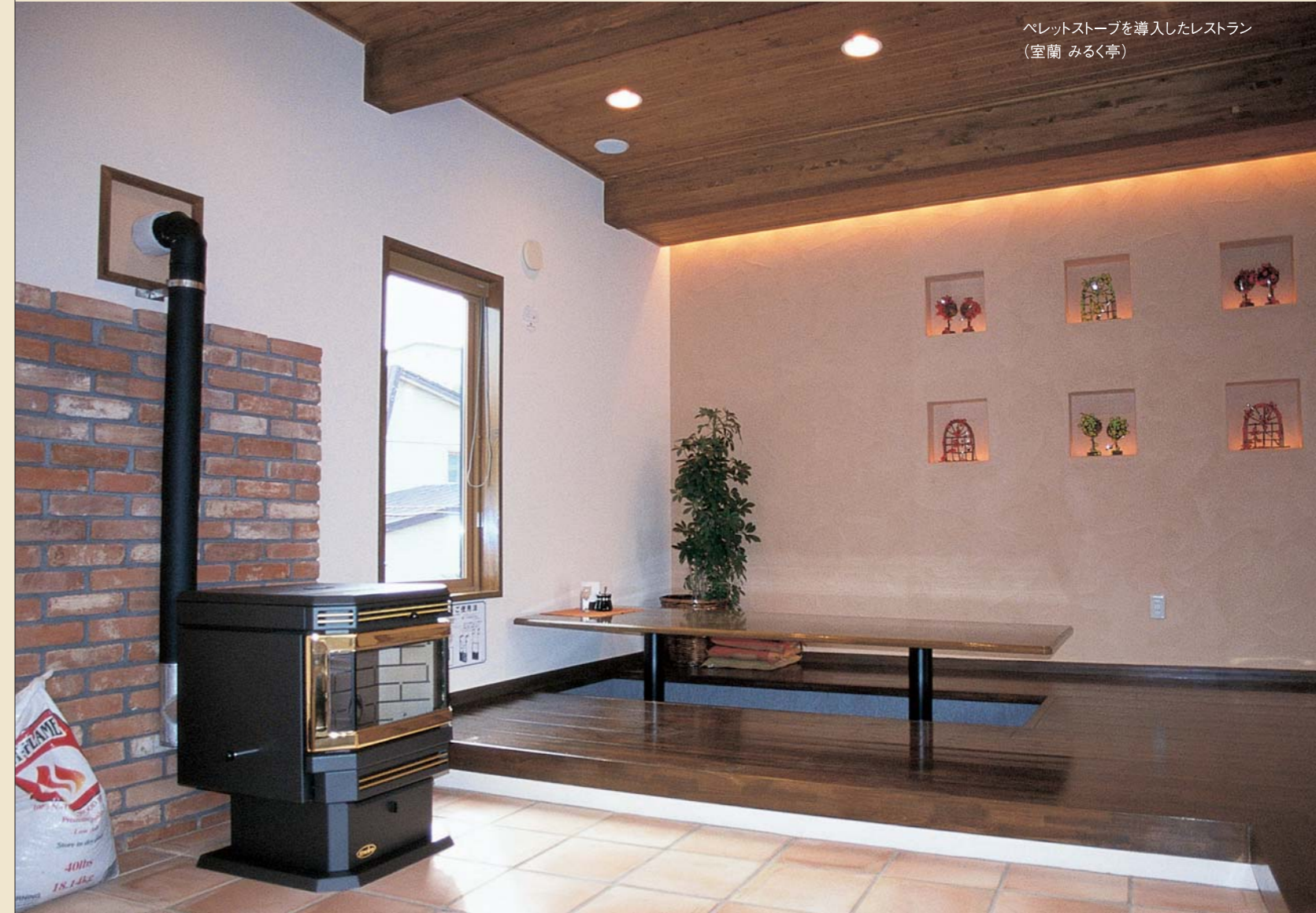
地球温暖化の最大の原因とされる二酸化炭素の削減は、環境問題の最大のテーマである。持続可能な木質バイオマス(生物資源)であっても、燃焼させると化石燃料と同じようにCO₂を発生させる。しかし植物は、成長過程で光合成によりCO₂を吸収しているため、燃料として使用しても蓄えたCO₂を消費していることであり、ライフサイクル上は相殺され環境破壊にはつながらないのだ。このようなCO₂の増加につながらない性質や、事業所などが発生するCO₂排出量を、社会活動などにより、植林や自然エネルギーを取り入れることにより、プラスマイナスゼロに近い近づける取り組みをカーボンニュートラルと呼んでいる。一般家庭でも、ボランティア活動や寄付などを通じて植林事業を応援するなど、私たちが積極的に関わっていくことも大切ではないだろうか。暖房エネルギーとして化石燃料を大量に消費している北海道でこそ、地域の木質バイオマスを燃料に利用した住まいの暖房システムを考えたいものだ。

木質ペレットの話

木質ペレットとは、木の樹皮や間伐材などを粉砕し、瞬間的に240℃の高温を加えることで木の成分リグニンによって固められた直径6mm×長さ15mmの木質バイオマス燃料のこと。燃焼効率が高く、有害なガスを残さず残った灰は肥料になる。ペレット燃料は、第二次オイルショックの1980年代初め、石油代替エネルギーとして注目された。日本では木材加工の際に出る樹皮を原料に、岩手県の葛巻林業が試行錯誤の末に実用化にこぎつけたのが始まりだ。ここで作られていたのは樹皮ペレットだが、一般的には樹幹原料のホワイトペレットや混合ペレットなどが作られている。環境に優しいエネルギー源として注目のペレットだが、約20年前には全国で30ヶ所近く稼動していたペレット工場のはほとんどが廃業し、5年ほど前には一工場しか残っていない。かつての流行や目先の利益に囚われることなく、計画性を持って持続されていくことが大切だ。そのためには、私たちが積極的にペレット燃料を利用する必要があると思う。

ペレットストーブの話

私が始めてペレットストーブやボイラーを見たのは、99年春のドイツウィルムでのエコ・パウメッセの会場だった。今年5月にドイツやオーストリアのエコハウスを見学した際、給湯・暖房の主熱源は、ペレットを利用して多くの人が多く、一般家庭での普及も近いように感じた。日本でも3年ほど前までは、輸入ストーブに頼っていたが、ここ数年の間に自動燃焼式の国産FFストーブが開発されている。デザインはどれもイマイチだが、メンテナンス性を考えると安心だ。今後の課題は、コンパクトな給湯と温水暖房用の国産ボイラーの開発だが、ペレット燃料の最大のネックは、燃料のデリバリーとストックにある。1時間当たり1kg消費される燃料を1年分ストックすると、かなりのスペースが必要になる。また小口で1袋15kgのペレットを宅配すると運賃の方が高くなってしまいうため、まとめ買いや共同購入などの仕組みも必要だ。地域の木質資源を利用したバイオマス燃料の普及と同時に、それらを活かす住まいの建築計画が私たちの課題でもある。



ペレットストーブを導入したレストラン
(室蘭 みるく亭)



エコデザイナー
西條 正幸

1960年伊達市生まれ。
札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。
自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社「西條インテリアデザイン」代表取締役。
エコスタイルショップ「素材自店」店主。

エコメッセでのペレットストーブ



Ecology House

環境と健康を考えたエコロジー建築



自然素材で新築・リフォーム
エコ/ロ/ジ/ー/建/築/工/房
有限会社 一級建築士事務所
西條インテリアデザイン
本社/札幌市北区百合が原4丁目8-1
tel.011-774-8599 fax.011-774-8581
伊達支店/伊達市舟岡町50-28
tel.0142-22-0138 fax.0142-22-0139
ホームページhttp://www.saijo-d.com

資料請求番号

ハガキで資料を取り寄せられます。



バイオマスエネルギーを家庭に



ホワイトペレット燃料



エコメッセでのペレットボイラー

カーボンニュートラル
という考え

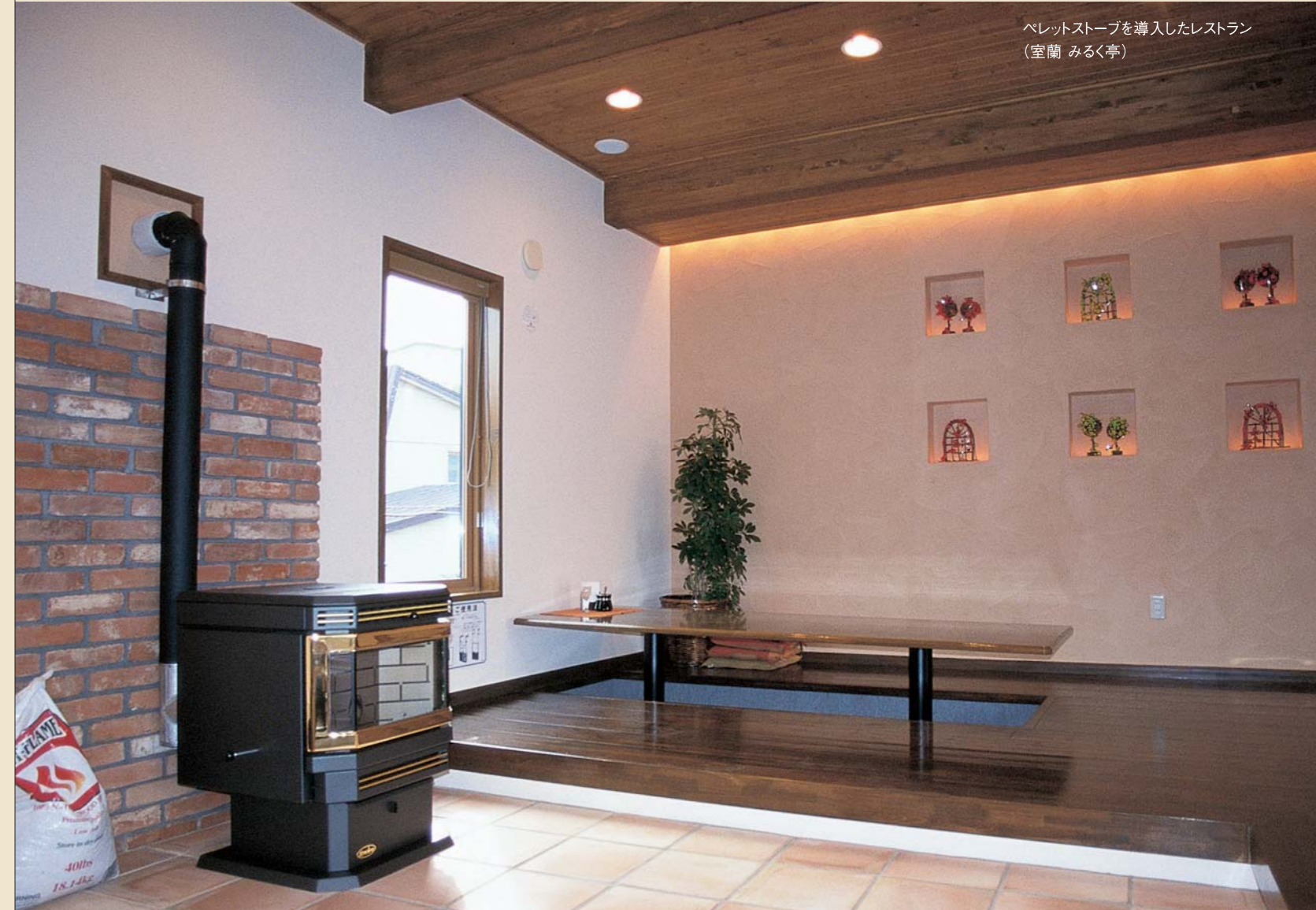
地球温暖化の最大の原因とされる二酸化炭素の削減は、環境問題の最大のテーマである。持続可能な木質バイオマス(生物資源)であっても、燃焼させると化石燃料と同じようにCO₂を発生させる。しかし植物は、成長過程で光合成によりCO₂を吸収しているため、燃料として使用しても蓄えたCO₂を消費していることであり、ライフサイクル上は相殺され環境破壊にはつながらないのだ。このようなCO₂の増加につながらない性質や、事業所などが発生するCO₂排出量を、社会活動などにより、植林や自然エネルギーを取り入れることにより、プラスマイナスゼロに近い近づける取り組みをカーボンニュートラルと呼んでいる。一般家庭でも、ボランティア活動や寄付などを通じて植林事業を応援するなど、私たちが積極的に関わっていくことも大切ではないだろうか。暖房エネルギーとして化石燃料を大量に消費している北海道でこそ、地域の木質バイオマスを燃料に利用した住まいの暖房システムを考えたいものだ。

木質ペレットの話

木質ペレットとは、木の樹皮や間伐材などを粉砕し、瞬間的に240℃の高温を加えることで木の成分リグニンによって固められた直径6mm×長さ15mmの木質バイオマス燃料のこと。燃焼効率が高く、有害なガスを残さず残った灰は肥料になる。ペレット燃料は、第二次オイルショックの1980年代初め、石油代替エネルギーとして注目された。日本では木材加工の際に出る樹皮を原料に、岩手県の葛巻林業が試行錯誤の末に実用化にこぎつけたのが始まりだ。ここで作られていたのは樹皮ペレットだが、一般的には樹幹原料のホワイトペレットや混合ペレットなどが作られている。環境に優しいエネルギー源として注目のペレットだが、約20年前には全国で30ヶ所近く稼動していたペレット工場のはほとんどが廃業し、5年ほど前には一工場しか残っていない。一時の流行や目先の利益に囚われることなく、計画性を持って持続されていくことが大切だ。そのためには、私たちが積極的にペレット燃料を利用する必要があると思う。

ペレットストーブの話

私が始めてペレットストーブやボイラーを見たのは、99年春のドイツワールドでのエコ・パウメッセの会場だった。今年5月にドイツやオーストリアのエコハウスを見学した際、給湯・暖房の主熱源は、ペレットを利用して多くの人が多く、一般家庭での普及も近いように感じた。日本でも3年ほど前までは、輸入ストーブに頼っていたが、ここ数年の間に自動燃焼式の国産FFストーブが開発されている。デザインはどれもイマイチだが、メンテナンス性を考えると安心だ。今後の課題は、コンパクトな給湯と温水暖房用の国産ボイラーの開発だが、ペレット燃料の最大のネックは、燃料のデリバリーとストックにある。1時間当たり1kg消費される燃料を1年分ストックすると、かなりのスペースが必要になる。また小口で1袋15kgのペレットを宅配すると運賃の方が高くなってしまいうため、まとめ買いや共同購入などの仕組みも必要だ。地域の木質資源を利用したバイオマス燃料の普及と同時に、それらを活かす住まいの建築計画が私たちの課題でもある。



ペレットストーブを導入したレストラン (室蘭 みるく亭)



エコデザイナー
西條 正幸

1960年伊達市生まれ。
札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。
自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社「西條インテリアデザイン」代表取締役。
エコスタイルショップ「素材自店」店主。

エコメッセでのペレットストーブ



Ecology House
環境と健康を考えたエコロジー建築



自然素材で新築・リフォーム
エコ/ロ/ジ/ー/建/築/工/房
有限会社 一級建築士事務所
西條インテリアデザイン
本社/札幌市北区百合が原4丁目8-1
tel.011-774-8599 fax.011-774-8581
伊達支店/伊達市舟岡町50-28
tel.0142-22-0138 fax.0142-22-0139
ホームページhttp://www.saijo-d.com

資料請求番号
ハガキで資料を取り寄せられます。

